

(出水郡高尾野町大久保字下柵原)

### 位置と環境

町の中心部の東部に位置し、すぐ西を高尾野川が流れる標高41mの平坦地に立地している。隣接地には道下段遺跡、高尾野川の対岸には、堂前古墳群、中里遺跡などが所在している。

### 調査の経緯

町土木耕地課は、平成7・8年(1995・1996)度事業として町営住宅建設、平成7年度事業として町道上の原・出水線の拡幅工事を計画した。ところが平成7年4月の県営農村自然環境整備事業に伴う分布調査で、この地一帯が遺跡として確認された。そのため、町教育委員会が調査主体となり、県教育委員会の協力を得て、確認調査の後、平成7年10月31日から同年12月22日まで本調査を実施した。

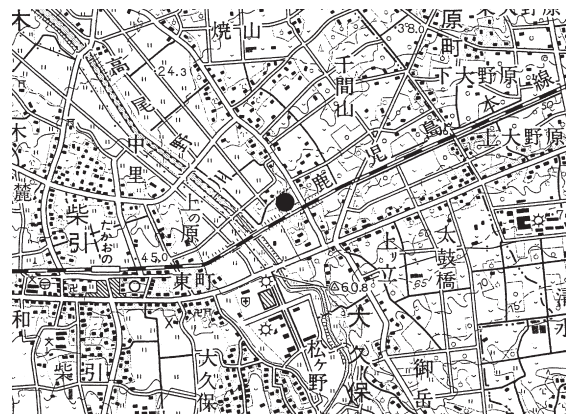
また、平成9年6月12日から同年同月30日には、県営農村自然環境整備事業に伴い町教育委員会が調査主体となり、県教育委員会の協力を得て発掘調査を行った。

### 遺構と遺物

縄文時代晩期を主体とする遺跡である。

遺構として、長径175cm、短径115cmほどある縄文時代晩期の落ち込み1基と江戸時代の墓壇3基、溝状遺構1条が確認された。墓壇(第2図)には人骨片と六道銭(寛永通宝)が残っていた。

遺物は、縄文時代晩期の黒川式土器が多量に出土した。そのほかの縄文土器の出土数は多くないが、早期の前平式・手向山式・塞之神B式土器・前期の轟式・曾畑式土器、後期の市来式・丸尾式・御手洗式・鐘崎式・北久根山式・西平式土器、晩期の夜白式土器などが出土している。晩期の土器は、精製浅鉢・粗製深鉢・鉢など様々な形態のものがある。浅鉢には、リボン状の突起の付くものがある。深鉢は胴部でくの字状に曲がり外反する口縁のものや、口縁が直に立ち上がるものなど多様である。鉢はマリ状を呈し、口縁直径が約40cmある。鉢の中には組織痕を広く残しているものもある。石器には、石鏃・石錐・スクレイパー・ピエスエスキュー・磨製石斧・



第1図 下柵迫遺跡の位置

打製石斧・石核・磨石・石皿・砥石・礫器・ハンマー・ストーンなどがある。

弥生時代の遺物には、中期の山ノ口式・須玖式・黒髪式土器、後期の松木菌式土器などがある。古墳時代の遺物には成川式土器、平安時代には土師器・須恵器が出土している。須恵器には口の部分が破損しているが現存高4.7cm、底径7.7cmの小型壺の完形品が1点ある。

### 特徴

本遺跡において特筆すべきことは、多量の組織痕土器の出土である。点数にして150点ほどあり、その内訳は網代圧痕17%、網目圧痕40%、編布圧痕43%となっている。そのほかに平織圧痕が1例含まれている。

また、石器のなかでは打製石斧が多く、石鏃や磨石・石皿類は少ない。このことは、狩猟・採集の生活から原始的農耕生活への変化を示しているようである。このほか13点のピエスエスキューが出土している。数年前から注目され始めた器種であり、晩期における生業などを考える上で注目すべき資料である。

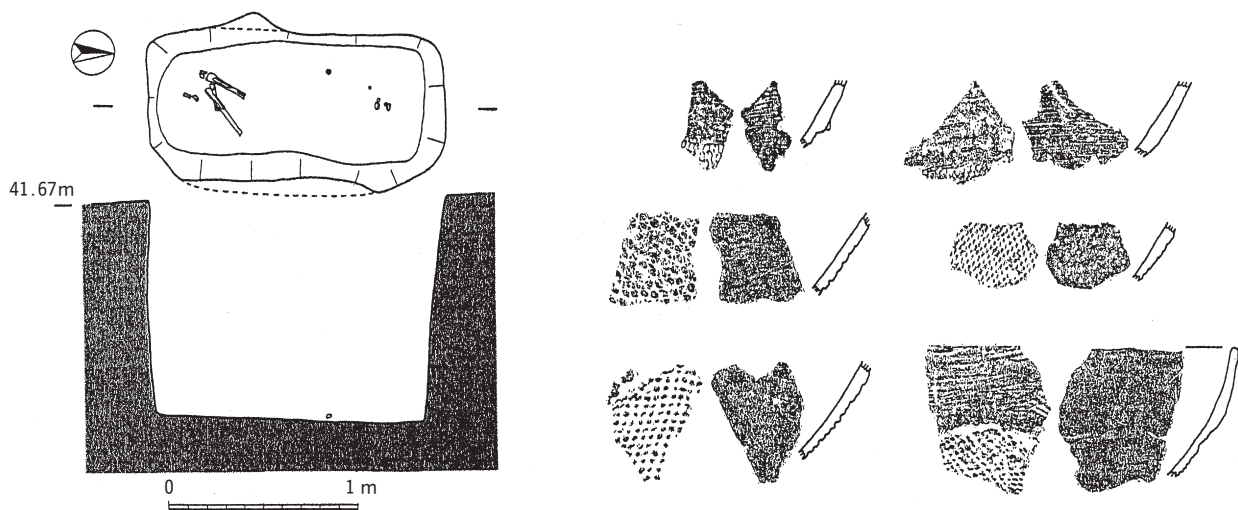
### 資料の所在

出土遺物は、高尾野町教育委員会に保管され、一部は高尾野町郷土館に展示されている。

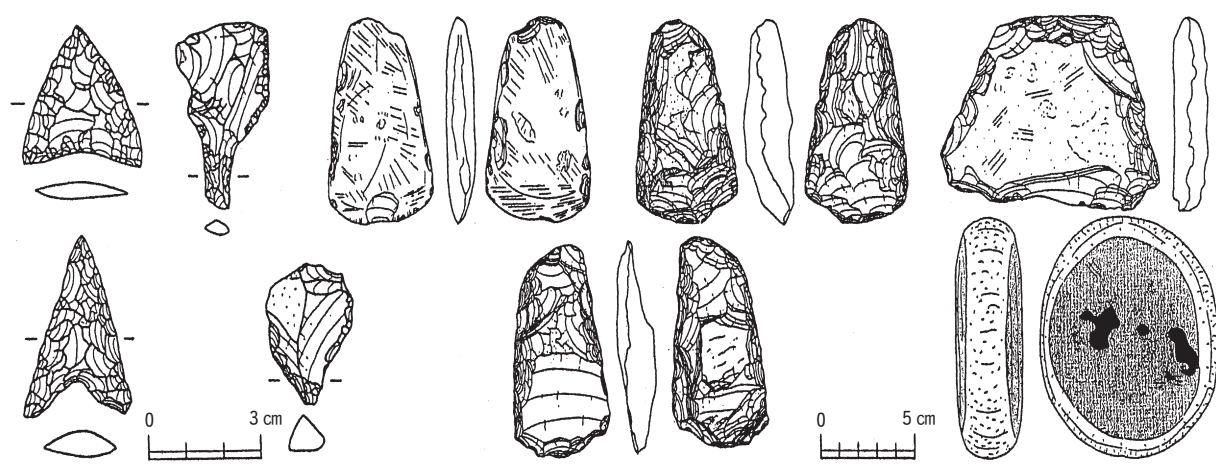
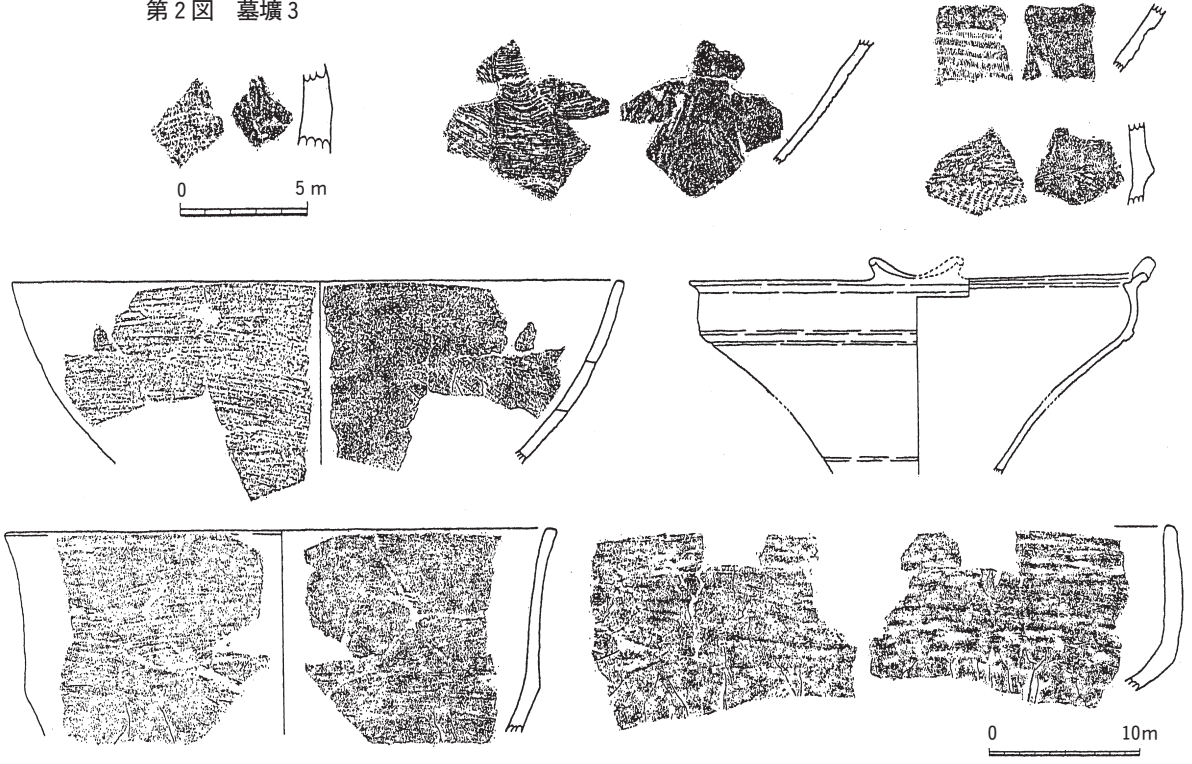
### 参考文献

高尾野町教育委員会2005「下柵迫遺跡」『高尾野町教育委員会埋蔵文化財発掘調査報告書』(4)

(松木千草)



第2図 墓墳3



第3図 出土遺物